Kalafina
Harmony

Kalafina
Harmony
Magazine
2017 Winter #02

Contents

Staff

Photo ⇒ 平野タカシ (P.01 ~ 06)
Styling ⇒ 久芳俊夫 (BEAMS) (P.01 ~ 06)
Hair & Make-Up ⇒ Daisuke Mukai (P.01 ~ 06)
Art Direction ⇒ 鶴羽高章
Edit ⇒ 芳崎志保

Kalafina
Harmony
Official Fan Club

Wakana

Keiko

Hikaru

Long Interview Kalafina

気がつけば2017年も終わりが近付いてきました。
1月23日の9周年ライヴからスタートした今年は、Kalafinaの3人にとって、どんな1年だったのでしょうか?
Harmonyだけに語ってくれた"Kalafina2017年総括"、
そして間近に控えた10周年ライヴについて。たっぷりとお届けします♪

◆2017年は1月23日の9周年ライヴを皮切りに、"9+ONE"というテーマを掲げて進んできた1年でしたが、皆さんにとってはどんな1年になりましたか?

Wakana　今年は4月からスタートした全国ツアー"Kalafina 9+ONE"をはじめ、今開催しているアコースティック・ツアー、ファンクラブでのイベントやライヴ、その他にもいろんなイベントに呼んでいただけて、約30公演近く歌わせていただいた1年になりました。今年は9周年の年でありつつ、10周年を見据えた活動をしていこうと3人で考えた年でもあったので、自然と"9+ONE"っていう言葉が出てきたんですよね。今、振り返ってみると、"+ONE"というのが、私たちひとりひとりの中にある"+ONE"のことだったり、"+ONE"の集合体がKalafinaであったり、お客さまそれぞれがKalafinaにとっての"+ONE"だったり……いろんな方向から受けとめて、意味を感じることができる言葉であり、そういうツアーができたと思っています。

◆日々を重ねるごとに言葉が示す意味が増えてきたんですね。

Wakana　そうなんです。今、アコースティック・ツアーの最中なんですけど、年間2本もツアーができるなんてありがたいですよね。

Keiko　今年はシンプルに10周年というものを3人で意識して、そのためにどんな年にしようか?ということを明確にして歩んできた1年でした。毎年、"今年はこういう年にしたい"とか、"今年はこんなふうに活動していきたい"とか、どの年もそれぞれに目標を持って活動してきたんですけど、今年は"10周年"という大きな区切りへ向かう1年、というのを強く考えながら活動していました。以前、周年ライヴをした時に、お客さまと「10周年を目指そう」という約束をしたんですね。10周年という約束の場所ができた。今年の1月23日に9周年ライヴでステージに立った時に、その約束の地が近づいてきたな、と実感できたんです。その時に「お客さまのことしか考えたくない」って思っちゃったんでしょうね(笑)。それで思わずその気持ちを皆さんに伝えてしまっていた。でも、その気持ちを伝えたうえで、後悔させないような活動にしていこう、っていう意識があったんだと思う。そんな想いで歩んだ今年は、いろんな人を巻き込んで、いろんな人のお力をお借りして、ひとつひとつのものを作り上げる喜びというものをすごく感じているんです。その分、私ひとりじゃなにもできない、っていうのを実感していて。今年も終わりに近づいてきた今、それを一番強く思っています。みんなが力を貸してくれたからこそやりきれた、心からそう思うことができた有意義な1年でした。

◆Keikoちゃんがさっき話してくれていた、9周年ライヴで伝えた「今年はお客さまのための1年にします」という言葉は、3人の年間通した目標だったと思うのですが、1年間通してその気持ちが途切れることなく続いていたことに驚かされます。

Keiko　今年はブレなかったですね、というかブレる必要がなかった。10周年が見えていたし、約束を果たすってやっぱりやり甲斐があります!

◆ファンの皆さんもその気持ちをしっかり受けとめていて。その想いが循環しているのを感じるから。

Keiko　本当に向き合うことって可能なんだなって。「1対1しかない、今年は!」って思いました、すごく楽しかった(ニッコリ)。

◆Hikaruちゃんはいかがでしたか?

Hikaru　Harmonyも立ち上がって、ファンクラブ・イベントも開催することができて。トークイベントでは、客席観覧から皆さんのお見送りまで、っていう。もちろん今まででもファンの方々の存在を近くには感じていたけど——今年の私の目標が"向き合う"だった、というのも作用していたかもしれないけど——本当にファンの皆さんって居てくださるんだ!って言うとなんかヘンですけど(笑)、存在をリアルに認識して、歌や気持ちを届けられた1年だったなって思います。改めて、そうやって皆さんと今までの歩みを振り返りつつ、今のKalafinaを見ていただけたのも大きかったかな。今までは話してこなかったようなこともファンクラブ・イベントでお話できたりとか。ここまで来られたから、今までやってきたからこそ、言葉にできたこともあったので……なんだかとても"濃い"1年だったな!って」

◆確かに。今年が10周年イヤーなのか!?と思うくらい、充実度が高くて密度の濃

> 今年は9周年の年でありつつ、10周年を見据えた
> 活動をしていこうと3人で考えた年でもあったので、
> 自然と"9+ONE"っていう言葉が出てきた
> -Wakana-

い、3人の歩みや成長を感じることのできる1年だったなと思います。

Keiko　まさに、10周年でやることを今年やろう、って決めてたんだよね。去年の今くらいの時期に3人で話し合ってね。10周年でやるであろうことを9周年でやろう!って。

◆じゃあ10周年となる来年は……。

Hikaru　ゼロスタートの年になるように。

Keiko　そう!　普通に考えたら10周年記念ってことで、そこでファンクラブを立ち上げたり、歴史を振り返ってみたりすると思うんだけど、それを9周年でやりきってから、10周年からは新しい景色を見るためのスタート地点に立ちたかったんです。

◆ここからアコースティック・ツアーの後半戦が待ち構えていて、1日ずつしっかり踏みしめて進んでいくのだと思いますが、10周年を迎える来年1月23日に向かって、なんの迷いもなく、臆することなく進んでいけそうですね。

Keiko　平常心だよね!

Wakana　そうなんだよね。9周年が始まった瞬間から、私たちの中では10周年が始まっていたようなものだったから。早めに誕生日を迎えてた気持ちというか。

Keiko　私たちの中では1年先取りしているような感覚で過ごしていたので、約束の日は、流れの中で来るべきして来る日なんです。嬉しいですよね、約束を果たせるっていうのは。10周年をみんなで目指そう、っていうのは8周年くらいに言ったのかな?

Hikaru　"10"っていう数字が見えてきたね、っていう。

Keiko　それを言った時にお客さんがすごく喜んでくれて。そのみんなのリアクションを見て、あぁ10周年っていうのは私たちもファンのみんなも、そこを目指して生きていくことですごくポジティブなエネルギーが湧いてくるんだな、お互いに生きる楽しみを持つのかもな、って感じたんです。

◆よく冗談半分で「これを見るまで死ねない」って言ったりするけど、Kalafinaの10周年の姿を観るまで生きていたい、ってリアルに思いますよ(笑)。

Keiko　ホントに!　お客さまの熱量がめっちゃ高くて。「這ってでも行きます!」とかね、言葉が強いの(笑)。

Wakana　気合いがすごいよね(笑)。

Keiko　私たちに対して、よく「ストイックですね」とか「熱量高いですね」とか言っていただくんですけど、そうじゃないの!　私たちじゃなくてあなたたちなの!って思うよね。

Hikaru　みんなの熱量があるからこそ、なんだよね。

Keiko　そう!　それがあるから腰痛でヨロヨロしていてもステージではビシッと立てるんだから!(笑)

Wakana　フフフ、身体の痛みとか忘れちゃう。

Keiko　やっぱり心、気持ちなんだよね〜。

◆待っていてくれている、聴いてくれてる"あなた"がいるから。

3人　そう!

Keiko　いただいたお手紙を読んでいると、私たちの歌で気持ちがポジティブになりましたとか、病気に立ち向かう勇気が出ましたとか、元気になりましたとかいろんなことを書いてくださっていて。もちろん、お手紙に記さなくとも心の中で同じように感じてくださっている方や、応援してくださっている方もたくさんいらっしゃる。そういう皆さんの想いや言葉に支えられているのは私たちのほうで。すごいエネルギーなんですよね。そこまで大事にしていただいて、好きって言っていただいて、本当にすみません!　私たちも皆さんが大好きです!っていう想いでいっぱいなんです!

◆それは……なんというか強烈な両想いですね(笑)。

Wakana　ホントに!(一同笑)

Keiko　ありがとう、みんな!(笑)　本当にそういう結びつきって素敵だよね。

◆そして、現在はアコースティック・ツアー真っ最中。今はツアーの折り返し地点を迎えたところですね。

Wakana　ここまで6本、岡山公演までやらせていただいて。今年は11月から秋のツアーとしてスタートさせていただいたので、のんびりと15公演できるのかな?ってちょっと思っていたんですけど……(笑)。始まってしまうとそんなことは全然なくって、あっという間!　ツアーって不思議なもので、ひとつずつの公演が違う作品のような感じがしていて、その日だけにしか生み出せないライヴになっているなって。ツアーの醍醐味ってこれだよね、って思いながらやらせていただいています。自分で言うのもあれですが、アコースティックでのKalafinaも好きだなぁって本当に思いますね。ひとりひとりの声がとてもよく聴こえるんですよ。

Keiko　もうね、普通に、必死にやってます!　コンディションも、メンタルも、本当に必死。1ホール1ホールが私たち人間みたいに生きているから。響きも体感も違うし。ミュージシャンひとりひとりのリズムの取り方、グルーヴの出し方、その日の体調、耳の聴こえ方……いろんなものがすごく作用し合って、ストリングスとピアノと私たちのハーモニーとが響きを作るから。必死でしかない!　アコースティックはなにもかもがそのまま出ちゃうから。だからステージに立つ瞬間ギリギリまで粘るんです。心が安定しな

> 今年は、いろんな人を巻き込んで、いろんな人の
> お力をお借りして、ひとつひとつのものを
> 作り上げる喜びというものをすごく感じているんです
> -Keiko-

い時も、調子がいい時も。ちょっと落ち着かせたり、自分のメンタルの持っていき方とかに気を配って。Wakanaも言いましたけど、1公演ずつ、始まりから終わりまでのストーリーが違うんですよ、不思議なことに。

◆同じセットリストなのに?

Keiko　そう!　それがよりいっそうやり甲斐を生むというか、私たちのモチベーションを上げるんです。どれも同じじゃないけれど、どれも正解なんですよね。

◆……生きていますね、音楽。おもしろい!

Keiko　おもしろいよ〜、アコースティック!語り始めたら終わらない、時間が足りないくらいおもしろいところがいっぱいあるの。それを要約したら、"必死でおもしろい"になっちゃったけど(笑)。必死と楽しいが拮抗してる感じなんです!　これは発見なんだけど、"必死"と"楽しい／おもしろい"がぶつかり合ってると、けっこう人って高みに行ける。ただ、ぶつかり合うための熱量を燃やし続けるのが大変、維持するのが大変っていうけど、私たちにはお客さまがいるから。いくらでも燃やし続けられるんだよね。

◆お客さまからの情熱が、どんどんくべられているんですね。

Hikaru　さっきストーリーが違うっていう話が出てきましたけど、本当にそう感じています。私は自分の中でストーリーを構築していくタイプなんですけれど、今回の公演はアドリブが多いなっていう感覚というか(笑)。自分のなかにいる人物像とか、そういうものは変わらないけど、その人がその日感じたものが全然違っているような感じ。それは、物語で一つのセリフを変えただけでそのあとの展開が変わっていくのと同じイメージなんです。その最初のひとつのセリフ、最初の言葉を毎公演、全然違う気持ちで歌っていたりするんですよね。本当に1公演1公演、大枠は一緒だけど細かいストーリーが変わっていく。

◆Hikaruちゃん的にそういう歌い方は珍しいですよね。

Hikaru　同じ物語の中で表現を磨いていって、という感じなので、今までそこまで物語が変わるっていうことはなかったんですけど、今ツアーはけっこう変わっていますね。

◆何回も観に行きたくなります。

Hikaru　たしかに1公演だともったいないかもしれないです(笑)。

◆興味深い変化ですよね。表現の幅が広がったとか、許容範囲が広がったとか、そういうところからの変化なんでしょうか。

Keiko　具体的にはどうしてなのかわからないけれど、たぶんみんなが空気を感じ取れるようになってきたからじゃないのかな。落ち着いているつもりでいても、ステージに上がった時の自分対数千人の空気感ってすごいものがあるんですよね。見て、感じているようで、なかなかちゃんと返すのが難しい。それができないんだったら、ちゃんと型の決まったものを表現者としてクオリティ高く表現するのがプロなんだと思うんです。でも、MCにしても、歌にしても、やっぱりその場で得たみんなのリアクションとか熱気とか拍手によって、私たちの心がその瞬間に動かされる。やっぱりそれを歌に反映したいけど、自分たちのポテンシャルやメンタルによっては難しい部分でもある。でも、今回のアコースティック・ツアーでは、その場の空気を感じてひとつの作品を作るということを、やれる時はやったほうがいいな、と感じています。

◆ひとつの大きな生き物、というか表現している人全員が同じ呼吸感で音楽を奏でることができているんでしょうね。

Keiko　それを捉えることができると、お客さんが求める歌唱に近付ける瞬間がある気がするんです。うまく説明できないし、感覚でしかないんですけど、きっとここでこういう画が見たいんじゃないかな、ってフッと降りてくる時があって。その感覚はアコースティック編成だからこそ掴みやすいんじゃないかと思う。それがすごくおもしろくて、楽しくて、必死になっちゃうんですよね(笑)。

◆ここから始まる後半戦もそれぞれ違うストーリーが待っているんでしょうね。そして、年が明けると日本武道館での10周年ライヴ……ですが、今までのお話を伺っていると、とてもニュートラルというか……。

Keiko　ですね!　私的には、このままのテンポで歩いていきまーす、という感じです(笑)。

Wakana　10年間Kalafinaの音楽が続いてきて、それを受けとめてくださるファンの皆さんがいてくれた、というのは、考えれば考えるほどに嬉しいことで。最初は「10周年、本当に来るのかな」ってドキドキしていた部分もあるんですけれど、9周年を迎えた時から見据えていた10周年がついに見えてきて、いよいよその日がやってくるんだ!と思うと楽しみでたまらないです。Kalafinaの誕生日、やっと2ケタになる日です。ぜひ楽しみにしていてください!皆さんから寄せられた声で作ったベストKalafina曲を歌わせてもらいます。奇跡のトップ3曲になっていますので。

Keiko　時間いっぱい、限界の限りを尽くしたセットリストを作りました(笑)。みんなの心をみんなで分かち合いたい、一緒に楽しみたいですね。あとは、皆さん無事に年を越して、健康で、風邪をひかないように!私たちと同じようにベストコンディションでその日を迎えてくださいね♡　一緒にステージに立つかのような気持ちで!

Hikaru　一員かのようにね。

Keiko　ひとりひとりが必要ですから!

Hikaru　武道館に1デイって初めてなんですよね。自分にとって武道館って、最初に立った時に悔しい思いをして、そこから2回目に挑戦して、ちょっとその気持ちを払拭できて。やっと武道館に来てくれるお客さまと音の一粒一粒をちゃんと感じられる心の余裕が芽生えてきたので、3回目となる今回は1文字1文字に全力を込めて、2デイズ分の気持ちを1デイに込めます!

Keiko　武道館から気持ちがあふれちゃうくらいにね。

> ここまで来られたから、今までやってきたからこそ、
> 言葉にできたこともあったので……なんだかとても
> "濃い"1年だったな!って
> -Hikaru-

"Harmony" -Premium LIVE vol.1-

2017.09.08 ビルボード大阪

Report

2017.09.17 ビルボード東京

ピアノの音色と3人のハーモニーに優しく包まれた夜。おいしいお食事をいただきながら、
Kalafinaと一緒に過ごした、レアで素敵な時間の模様をお届けします

Text ⇒ 芳崎志保　Photo ⇒ 片岡 祥

Wakana

Keiko

Hikaru

秋の気配が色濃くなってきた9月中旬、折しも日本列島を台風18号が縦断していたこの日。東京・六本木のビルボード東京で、ファンクラブ・ライヴKalafina "Harmony" Premium LIVE vol.1が開催された。ビルボードは、観客席で美味しいお食事やお酒を、音楽と一緒に味わうことができる大人のライヴハウス。Kalafinaにとっては初めての場所だ。

徐々に照明が落ちてゆき、櫻田泰啓がピアノを奏で始めると、Wakana、Keiko、Hikaruが静かに登場。黒を基調にしたシンプルシックなドレスが似合っている。

1曲目は「百火撩乱」だった。決意や覚悟を秘めた力強い歌声に、一気にシリアスな世界に引きずり込まれる。3人のハーモニーとピアノ伴奏だけで展開するアレンジは、原曲とはまた異なるダイナミズムを持ち、楽曲世界の新たな魅力を見せてくれる。

「この場所に立つのも、こうやって皆さんが集うHarmonyのライヴも初めてですね。近い距離でお会いできるのは嬉しいです」とWakana。「今日はちょっぴり天候が心配だったんですけど(笑)。皆さんが楽しみにしてくださっている声を聞いて、私たちもどうかたくさんの方が会場に来てくださるといいな、と思いながらスペシャルな曲を用意してきました。最後までゆっくりとお楽しみください」とKeiko。そしてHikaruは、「上の席も、奥の席も、もちろん前もしっかり見えていますよ~。シックな雰囲気で大人な感じなんですけど、Hikaruはいつも通りにいきたいと思います(笑)」と茶目っ気を交えて最初のご挨拶を。

3人の言葉でちょっぴり緊張気味だった場内の空気がふわっと緩和したところで、「ビルボードさんで演らせていただける、ということで、この曲をやってみたいね、と選んだちょっと懐かしい曲を」と、Hikaruによる曲紹介から「sapphire」を披露。WakanaとKeikoの寄り添うようにたゆたうハーモニーがフロア中にしっとりと広がる。そのまま「red moon」へと繋げると、一気にダークファンタジーの世界に染まった。1音を深く響かせながらも全体のリズムを刻むKeikoの低音域、アタック強めのヴォーカリゼーションでハーモニーに色彩を付けるHikaruの中音域、天上から降り注ぐような神々しさを感じさせるWakanaの高音域。3人の歌声がせめぎ合い、溶け合っていく。瞬きさえ忘れてしまうほど、ステージに集中させられた歌唱だった。

その想いはステージ上の3人も同じだったようで、「Keikoさーん、戻ってきてくださーい」と曲終わりのMCでWakanaが冗談めかして切り出すと、「大ラスなの!?というエネルギーで歌ってしまった!」とKeiko。まさに序盤からクライマックスの盛り上がりだ。

一転、ここからはファンクラブ・ライヴならではのサプライズ企画が登場。

「今日はすごく寒いんですけど、夏ソングを楽しんでもらいたいなと思いまして。皆さんと一緒に夏の思い出を作りたいな、なんて思っているんです」(Wakana)

「Kalafina的には例年10月まで"夏"だったんですよね。今年は寒いけど10月はまだ暑い日のほうが多かったから」(Keiko)

「では今年の夏の思い出作りに、ご自身の椅子の裏を触ってみてください!　そこになにか封筒らしき感触がある人がいるかもしれないですよ?」(Hikaru)

すると客席の女性から「あっ!」と声が挙がる。どうやら封筒を発見したようだ。その封筒の中には、1:「屋根の向こうに」 2:「夏の林檎」 3:「夏の朝」という夏の歌3タイトルが記された紙が入っていた。

「今日は、"あなた"にこの中から1曲選んでいただこうと思います!」とHikaruが宣言すると場内からざわめきと共に拍手が湧き起こる。Wakanaに「なんて責任重大なんでしょう~。

ビルボード大阪公演

01. 百火撩乱
02. sapphire
03. red moon
04. 屋根の向こうに(1回目)/夏の林檎(2回目)
05. むすんでひらく
06. monochrome
07. 君が光に変えて行く ~ acoustic ver.
(Wakanaソロ)
08. ARIA(Hikaruソロ)
09. 風の街へ / FictionJunction KEIKO
(Keikoソロ)
10. oblivious
11. interlude #02
12. sprinter
13. アレルヤ
Encore
14. 夏の朝(2回目のみ)

ビルボード東京公演

01. 百火撩乱
02. sapphire
03. red moon
04. 夏の朝(1回目)/ 屋根の向こうに(2回目)
05. むすんでひらく
06. monochrome
07. 君が光に変えて行く ~ acoustic ver.
(Wakanaソロ)
08. ARIA(Hikaruソロ)
09. 風の街へ / FictionJunction KEIKO
(Keikoソロ)
10. Magia
11. 未来 short ver.
12. 君の銀の庭
13. ひかりふる
Encore
14. 真昼(2回目のみ)

みんなの希望を背負っております!」とプレッシャーをかけられながら彼女が選んだのは「屋根の向こうに」。緩やかで優しいワルツのリズムに乗って、Hikaruの可憐な歌声が、そこにWakanaとKeikoのやわらかなハーモニーが重なる。明るめのライティングに照らされて、リズムを取る3人のドレスの裾がヒラヒラと踊っているのがチャーミングだ。リクエスト曲でほっこりした後は、低音から高音まで存分に使った和音メインの伴奏と3人が紡ぎ出す1声ずつの表情が細部まで感じ取れた「むすんでひらく」。4つの音の多層的な厚みが、かたまりではなく1音1音クリアに響くのはアコースティック・ライヴならでは。また、前半戦ラストを飾ったジャズアレンジの「monochrome」は、スウィングする熱っぽいピアノ演奏と躍動的な歌声が絡まり合い、楽曲の新たな魅力を見せてくれた。リズムに合わせてステップを踏みながら、ステージを右へ左へと軽やかに歌い歩く3人に目と耳が釘付けになる。最後の1音が鳴り終わった瞬間に湧き起こった万雷の拍手と大歓声に、オーディエンスの喜びと興奮がそのまま表われていたように思う。

続く後半戦では思いも寄らない展開が。Kalafinaのライヴでは初となるソロでの歌唱コーナーが待ち構えていたのだ。

「Kalafinaは3人でハーモニーを奏でているんですけれど、今日はひとりひとり好きな曲を選んでお届けしたいと思います」というWakanaが選んだのは、9年前にリリースしたリミックスシングル「Re/oblivious」に収録されている「君が光に変えて行く~acoustic ver.~」。元々、Wakanaのソロで構成されているこの曲だが、ライヴで披露するのは初めてのこと。音数を最小限に抑えたピアノに乗せて、Wakanaの慈しみ深い歌声が朗々と響く。『空の境界』のシーンを思い浮かべた人も多かったのではないだろうか。続くHikaruは、プロデューサー梶浦由記、そしてKalafinaとの出会いの曲である「ARIA」をセレクト。9年前にレコーディングした「ARIA」への深い想いを語りつつ、「いろんな歌を皆さんと作ってきたからこそ、今の"ARIA"を歌えると思っています」と、新たな想いを重ねた渾身の歌声を届けてくれた。「メンバーの背中をステージで見ながら、それぞれの歌を聴くというのは初めてなので新鮮な気持ちです。この2人と歌えることがすごく誇らしいなと思いながら聴いておりました」と嬉しそうに話したKeikoが選んだのは、「梶浦さんとの出会いの曲」であり、2005年にFiction Junction KEIKOとして歌唱した「風の街へ」。穏やかな表情と詩情あふれる歌声がみんなをふわりと包み込んでいく。リリカルなピアノの音色と溶け合いながらフロアを優しさで満たしたのだった。

終盤に待っていたのは、『魔法少女まどか☆マギカ』で携わった楽曲のメドレー。濃赤のライティングの中、ドラマティックに始まった「Magia」から「未来 short ver.」、透き通ったハーモニーと8分の6拍子の流麗なテンポに惹きこまれた「君の銀の庭」。一息ついて「ひかりふる」へ。途中、ステージ後ろを覆っていたカーテンが開き、3人のバックに東京の夜景が広がるというビルボードならではの演出もあり、祈りのようなWakanaのロングハイトーンが美しく響く中、大歓声と共に本編は終了した。

「アンコールはやらない予定でセットリストを考えたんだよ~」と言いつつも、止まない拍手に応えて再登場した3人。「今日は寒いし、台風の影響で無理してきてくださった方もたくさんいると思うから……あったかソング、どうですか?」というKeikoの提案で、大ラスナンバーは「真昼」を。丁寧に一言ずつ語りかけるような歌声は、その場に集まったひとりひとりにしっかりと届いたはず。ファンクラブ・ライヴならではの"親密さ"と"近さ"をじっくりと味わえたスペシャルな一夜となった。

"Harmony" ~Talk EVENT vol.1~

Report ●2017.09.01 東京 中野サンプラザホール ●2017.09.09 大阪 NHK大阪ホール

Harmony発足記念のスペシャルイベント! トークあり、朗読あり、歌唱あり、じゃんけん大会あり!
東京・中野サンプラザホールでの楽しすぎる時間をレポート♪

Text ⇒ 芳崎志保　Photo ⇒ 玉岡優莉

2017年4月にKalafinaオフィシャルファンクラブHarmonyが発足して半年足らずの9月初旬、会員限定のスペシャルトークイベントが開催された。Kalafina念願のイベントとなったvol.1は、ファンのみんなと一緒に活動の歴史を振り返るスペシャル映像から場内全員参加型のじゃんけん大会まで、3人のアイデアと行動力が見事に結実した濃厚大充実な2時間となった。

19時5分。ゴーンゴーン……と厳かな鐘の音が鳴り響き、だんだんと場内が暗くなると、スクリーンに星空と王城が映し出される。お城の扉が開くと実際の舞台の幕が上がり、満面の笑みを浮かべたKalafinaが登場。

「初めてのファンクラブのトークイベントです。今日は最後までKalafinaのトークを楽しんでください!」(Wakana)

「濃い繋がりのファンクラブの皆さんと一緒に、もっと近くなる時間を作れたらな、と思っていろんなことを用意してきました」(Keiko)

「今日はモノクロコーデというドレスコードを設けさせていただきまして。白はWakanaカラー、黒はKeikoカラー、入口でお渡ししたパスはHikaruの初期カラーの青色。全員分の"色"を身につけていただきたいということでお願いさせていただきました。ありがとうございます! いつもは音楽での会話をしていますが、今日は"本当の会話"をしていきたいと思います(笑)」(Hikaru)

今日にかける思いを告げた挨拶のあとは、3人が客席に降りてファンと一緒にスペシャルVTR「Kalafina誕生秘話ヒストリア」を鑑賞することに。"9+ONE"ツアーの千秋楽・香港公演の模様から始まって、Kalafinaが結成されてから今に至るまでの道程が丁寧にまとめられたVTRに全員が真剣に見入っていた。

オープニングは豪奢な額縁をモチーフに

お部屋っぽいセットが素敵です

客席に降りる3人の姿。レアですね

Hikaru×Keiko企画の1シーン

KeikoはWakanaと水族館へ

ムービーにつっこみを入れるKeiko

司会の冨田さんとアイコンタクト

3作品とも力の入った企画VTRでした

笑顔あふれるトークタイム

マイペースなWakanaのターン!

手に持っているノート、素敵です

観客のみなさんに説明するHikaru

あたたかいハーモニー♡

アットホームな雰囲気が良い感じ

貴重なお話が聞けました!

ここで司会進行役として音楽評論家／プロデューサーの冨田明宏さんが登場。気心知れた4人の気さくな会話で、会場の空気が次第にあたたまってくる。お次は、会報連載ソロコーナーをメンバーのスイッチングで掘り下げるスペシャルVTRがスタート。HikaruはKeikoの連載に倣ってキックボクシングに挑戦、KeikoはWakanaの連載と同様にサメを観察するために水族館へ、WakanaはHikaruの連載をお手本にブックコンシェルジュに挑戦するという、愛と笑いあふれる3本立て。一体いつの間に!?と思うほど、濃い構成&体当たりの企画内容に、Kalafinaのトークイベントへの本気度がうかがえた。

アカペラコーナーでは、事前に会員の皆さんからリクエストを募った楽曲の中から本人たちが選んだ曲を披露。いつもは聴けないテイストの歌声が新鮮だ。続いて同じく会員から募集した質問に答えるコーナーへ突入。「それぞれの好きなところは?」「続けていることはありますか?」などの共通質問から、個別のものまで和気あいあいと進んでいく。

場内の雰囲気が一気にアットホームになったところでファン参加企画「じゃんけん大会」を開催。Kalafinaを代表してHikaruが全員と勝負をして、勝ち残った3名に、メンバー各々がセレクトした景品を贈呈した。

わいわいと楽しんだ後は、Kalafinaらしく楽曲メインのコーナーへ。実際にHikaruがプロデューサー梶浦由記さんから楽曲をいただいたときに楽曲への理解を深めるために行なっている方法のひとつ、「朗読」について触れ、Hikaruは「花束」、Keikoは「into the world」、Wakanaは「むすんでひらく」を各自披露。ひとりひとりが朗読し終わるたびに、選んだ理由を3人で語り合い、最後は「やさしいうた」と「真昼」から一部を抜粋して3人一緒に朗読。歌同様、息の合ったリーディングを聞かせてくれた。そしてその流れで「真昼」を歌唱。歌詞を噛み締めた後だっただけに、よりいっそう深く沁みこむ歌声となった。

「本当に楽しいイベントでした! 私たちの音楽と皆さんが知ってる音楽を共有できるのは、すごく楽しいものだなぁと感じました」(Wakana)

「今日を迎えるのを楽しみにしてドキドキしていました。企画したたくさんのことは皆さんがいなかったら絶対できないことですし、皆さんのことを思いながら考える時間がすごく楽しかったです。またいろんな形で私たちのハーモニーを届けていけたらと思っています」(Keiko)

「考えてきた企画を皆さんの前でやってみて、(喜んでくださっているようで)よかったな、と。今までをみんなで作ってきたからこそ、今日が作れたんだなって実感しながら立っていました」(Hikaru)

最後はみんなで記念写真を撮影して、Kalafinaが出口でお見送り。ひとりひとりと目を合わせて、笑顔で送り出していた。Kalafinaにとってもファンのみんなにとっても、忘れられない日となった第1回目。今から次回の開催が楽しみでならない。

参加型企画じゃんけん大会!

勝ち残った勇者たち3人に祝福を

Wakanaからはサメのぬいぐるみ

最後は3人のハーモニーを堪能♪

at TOKYO

Wakanaはラフトルホース、Keikoは上腕二頭筋ホース、HikaruはHikaruスマイルホースで、上手、中央、下手ゾーンに分かれて記念写真! 良い笑顔♡

at OSAKA

Kalafina、世界遺産で歌う。

秋深まるころ、日本が誇る世界遺産2箇所を舞台に、
Kalafinaがそのハーモニーを届けました。
歴史と自然に包まれた、荘厳かつ優美なライヴの風景を
3人のコメントと共にお届けします。

Text ⇒ 芳崎志保　Photo (日光東照宮) ⇒ キセキミチコ (KISEKI inck)

2017.9.30

世界遺産劇場Extra —日光東照宮— 国宝陽明門 平成の大修理竣工記念 “Kalafina with Strings”

2017.10.8
2017.10.9

世界遺産Special LIVE —興福寺—
中金堂再建記念 “Kalafina with Strings”

興福寺・五重塔をバックに素敵な看板

リハ時のHikaru。コートを羽織ってあったかく

[illegible]持ちよい夕暮れ時

合間にきちんと水分補給！

写真好きのWakana。うまく撮れてるかな

お客さまがいらっしゃる前はこんな雰囲気

ステージの奥に[illegible]が見えるロケーション

Wakana's comment

2箇所ともステージに立ってみて、想像していた以上の感動をいただきました。栃木・日光東照宮では私たちのいる場所が宇宙のような神秘的な雰囲気で……。きっと皆さん寒かったと思うんですけど、しっかりと音楽を受けとめてくださっていたのがわかりました。

奈良・興福寺では、さまざまな歴史を見つめてきた場所で歌うことでタイムスリップしたかのような気持ちになりました。そんなふうに重厚な場所なのに、鹿がみんなに優しくされている様子がすごく愛おしくて（微笑）。「これが奈良の姿なんだな。きっと昔の日本はこういうふうに動物と人間が一緒に過ごしてたんだなぁ」って思いました。古き良きものを人間が守ってきて、その大切なものを現代に暮らす自分たちが忘れないように見守っていく……その想いを私たちの歌と共にお客さまも感じることができたんじゃないかなって思います。そういう場所だから（歌っているときに）いろんなことがリンクしてくるのは当然なのかなって。ライヴを見てくださった方が「"満天"のとき、星空がすばらしかったです」と言われていて。それは奇跡というよりは、そういう場所なんだろうな、と。神様が音楽が大好きで、その想いを包み込みながら、星空もKalafinaの音楽を見守っていたのかな、って。

Keiko's comment

歌い人としての人生の中で心から「歌えてよかった」と思う経験になりました。お声がけしてくださった方々をはじめ、あの場所に私たちを運んでくれた方々に感謝です。

そしてお客さまたちが、この場所でKalafinaの歌を聴けてうれしい、ありがとう、って思ってくださっていたのも伝わってきて。みんなが「ありがとう」と思える場所だったというか……。なにかに感謝をする、その連鎖ってとても幸福なことで、それが世界遺産という場所の力なんじゃないかな。

本当にこれは私たちの経験だけに留めておいたらもったいないです！　世界遺産で、もっといろんなアーティストがライヴをするべきだと思うし、あの素晴らしい体験をした人たちも語るべきだと思う！　ホントにね、みんなにもっと知ってほしい、人を幸福にする輪を作るってことの素晴らしさを。話が大きくなっちゃうけど、音楽で世界平和を、という想いにも繋がっていく感覚だと思う。

また機会をいただけることがあれば、Kalafinaはこれからも世界遺産という場所で音楽を届けたい。そしてもっとたくさんの人にあの幸せな感覚を感じてもらいたいなって思っています。

Hikaru's comment

日光も奈良も、たくさん人たちがその場所に参拝しに訪れる気持ちがわかる、そんな場所でした。私たちも両方とも参拝させていただいて、ひとつひとつの建物の意味や由来を教えていただいたのですが、ここにいらっしゃる方々はその教えを何百年という長い間、守り続けていらっしゃるんだ、ということが感じられて。だから長い間、変わらずにあの場所に存在し続けているんだな、と思いました。

人が軸にしなければいけない部分、人としての生き方とか心の持ちようとか、そういう部分を伝統として守り続けているというのは、こういうことなんだなぁと、実際にお話を伺って、感じ取ってからステージに立って歌う、という体験は、なにも知らずに、ただそこに立ってライヴをするのとは大きく違っていて、格別なものでした。

なぜここに建立されたのか、とか、なにを人々に伝えてきたのか、を感じながら歌うと、いつも響かせている言葉やメロディが違う意味合いを含んだように聴こえてきて……。

深く感じるというのはこういう感覚なんだ、ということを感じさせてくれた世界遺産ライヴでした。

Road to Kalafina Acoustic Tour 2017 ~"+ONE"with Strings~

11月からスタートした『Kalafina Acoustic Tour 2017～"+ONE"with Strings～』。
パンフレット撮影とツアーリハーサルに潜入！ どんなふうに作られていくのか？ その裏側をお届けします

Part1 Pamphlet Shooting Making Photo

朝早くから夜遅くまで、しっかりと時間をかけて撮影されるKalafinaのパンフレット用撮りおろし。
その写真の根幹にあるのは、Kalafinaの音楽世界と3人の存在感なのです

Director's Comment

「Kalafina Acoustic Tour 2017～"+ONE" with Strings～」と「"Kalafina with Strings" Christmas Premium LIVE 2017」のツアーパンフレットは、両ツアーがアコースティック編成であることを根底に、それをどう形にして写真に落とし込むかを考えました。

流行り廃りがあるポップスの中で、歌声と弦楽器、ピアノの音の重なりが生み出す音楽は時を越えて私たちに力を与えてくれ、美しいと思わせてくれる存在だと感じます。そんな普遍性に、Kalafinaと梶浦由記さんがこの9年で積み重ね、作ってこられた音楽世界を重ねた時に浮かび上がったのが、大自然でした。

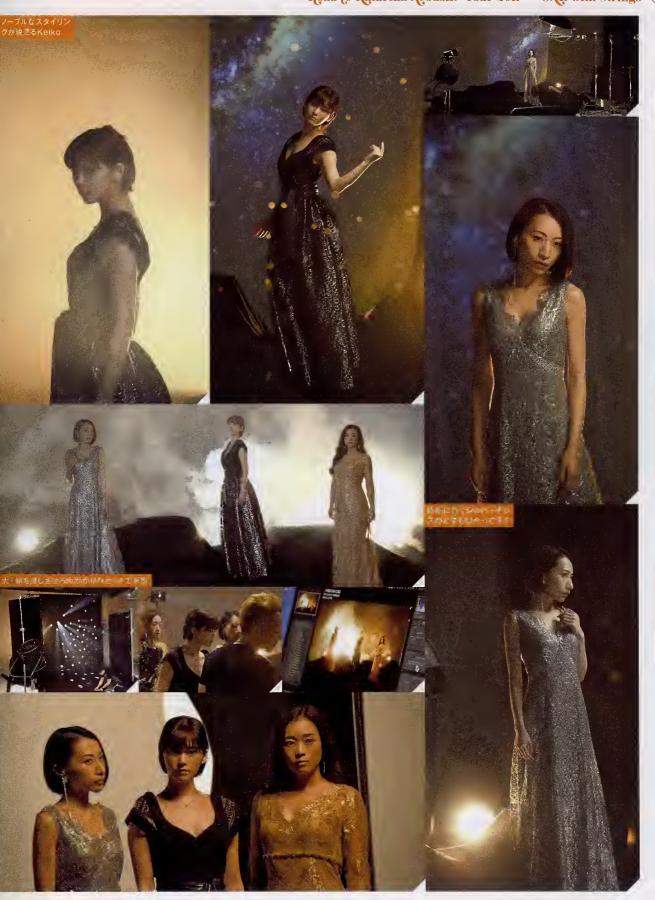
海、雲、大地、そして月や星といった宇宙……人の生き死にの輪を超越して有り続けるもの。さらにまったく同じ景色は二度と存在しないもの。

それが、今のKalafinaのアコースティックライヴを表現してくれるのではないか、という想いからパンフレットを構成しています。

みなさまの記憶に刻まれている、このライヴの景色や記憶とパンフレットが重なるものになれば幸いです。

ART DIRECTOR
大西智之

一番手はWakana。幻想的な星空を背景に

ノーブルなスタイリングが映えるKeiko

Part2 Rehearsal Report

Harmony Magazine#01のインタビューでKeikoが提案してくれたリハーサル・レポートが早くも実現！

10月某日。都内のリハーサルスタジオにKalafinaの姿があった。ステージの時とは違い、カジュアルな装いの3人がスタジオの一角に集まり、真剣な面持ちでミーティングをしている。手元にはそれぞれ愛用のノートとペン。

今日は11月からスタートするアコースティック·ツアーのリハーサル1日目。まずはピアノのさくちゃんこと櫻田泰啓さん、アレンジャー·石川洋光さん、音響スタッフたちという最少人数で、ライヴ全体の流れやセットリスト、新アレンジで披露する楽曲の確認など、ベースを固めていく作業に取り組んでいく。

Keiko「この曲とこの曲を入れ替えたりするのもありかな、って思ったんだけど……」

Wakana「賛美歌は梶浦さんも何曲か選んでくださってて……」

Hikaru「この前メールで送った曲が入っていたような……」

どうやらアコースティック·ツアー終盤の“Christmas Premium LIVE”のセットリストについて打ち合わせているようだ。今回のツアーは、12月19日の大阪·ザ·シンフォニーホールから“Christmas Premium LIVE”となり、それまで廻ってきた“+ONE”の演奏曲目から数曲分が入れ替わる。そのいちばんの特色になるのが、定番のクリスマスソングやKalafinaならではのハーモニーが活きた賛美歌だろう。その置き場所を含めたセットリストのアイデアを練っていたのだ。

13時20分。アレンジャーの石川さんから、今回のツアーで新たにアコースティック·アレンジをほどこす楽曲についての方向性の確認が行なわれる。この会報が皆さんのお手元に届くころはツアー終盤に入っているとはいえ、ここですべての曲目を記すのは避けたいところだが、「この曲はまだツアーで披露していないので、オリジナルのイメージに近付けたいな」「この曲はビルボードでやった時のイメージを元にストリングスで装飾をつけて……」などのKeikoと石川さんのやり取りを通して、この場にいる全員の中でどんどんアレンジの完成イメージが重なっていく。

「まず作ってきたデモ音源を聴いてみてください」と石川さんがスケッチ的なアレンジ譜をみんなに配布。すぐに櫻田さんがポロロンと弾き始め、3人も譜面を読んで、それぞれ気になるところを確認していた。

一通りデモ音源を聴いたあと、ピアノとストリングスのバランスやテンポ感を細かく詰めていく。過去のアコースティック·ツアーで披露していた楽曲も今年用に手を加えて変えると言う。少しだけ具体的に紹介すると、ライヴ定番曲「oblivious」では、Keikoが「オリジナルはシーケンスありきで成り立っている曲だからこそアコースティックでハッとさせるようなアレンジにしたいんです!」とリクエストを出すと、全員でピアノに集まって実際に歌ってみながら、その場でブロックごとのテンポチェンジやサビ前の小節数追加などを詰めていく。アコースティックだからこそ可能な有機的なアレンジにしたい、という想いから出される全員のいろんなアイデアを繰り返し試し、楽曲がより活きる形を模索する。「もう1回やっていい?」と櫻田さんが確認をリクエスト、その後にKeikoが「1サビからやっていい?」とまた気になったところを繰り返し、「Aメロからやろう」とまた繰り返し……と何度も何度も練習を重ねる。そのたびに楽曲のアレンジが確実にブラッシュアップされていくのが傍で聴いていて感じられる。やっと納得のいく形になったアレンジを通した後、「うー……“oblivious”難しい~!」とKeikoが悔しそうに笑い、WakanaとHikaruも「手強いよ~」と嘆きつつも、3人の表情は明るい。難しさを超えられる手応えも掴んでいるのだろう。

14時50分ごろ、石川さんが今日のセッションをより詳細なアレンジに落とし込む作業のために退出すると、ここでやっと一旦休憩。と

言っても3人共、譜面になにかを書き込んだり、ノートを確認したりと忙しそうだ。Keikoは櫻田さんと「光の旋律」のイントロのアイデアを出し合っていた。

約10分の休憩を挟んで、15時からブロックごとの歌唱リハーサルがスタート。「世界遺産方式で行く？　どうする？」とオープニングの登場方法も相談しつつ、1曲目から"通し"が始まった。初見で合わせるアレンジもいくつかあり、1曲歌い終わるごとにササッと注意点を書き込んでいた。本番さながらの集中力で歌い、ハーモニーの響きを確認しながらも、合間では「2A部分、入りを見失いそうになりました!　ごめんなさーい!」「全体リハの時に詰めたいので持ち帰っていい?」「この曲とこの曲のつなぎ、自然でよかったよね!」などなど気付いたことをどんどん発言する3人。テンションの緩急でバランスで取りながら、良い空気感のままグイグイと前進していくリハーサルに圧倒される。決して勢いや気合いだけではなく、冷静に繊細に落ち着いた心持ちで歌声とアレンジの印象を分析して微調整し、時には大胆な変更を提案して、ベターからベストを探っていく姿は、ステージ上で見せる顔とはまたひと味もふた味も違っていて興味深い。

ぶっ通しで1時間10分ほど歌って、再度休憩を挟んだあと、後半ブロックのリハを開始。

「このブロック、くるね!」(Keiko)
「全部5～6分の曲だよ～」(Wakana)
「山しかない!(笑)」(Hikaru)

歌い終わった3人が思わずこぼしたこのコメントで、今ツアーのクライマックスが持つ迫力がただごとではないことが伝わるのではないだろうか。この日のKalafinaは、通しリハを終えたあとも3人だけでリハスタに残って、楽曲ごとの細かいニュアンスやフレーズを作りこんでいた。

翌日も午前中から集合して、前日決めたセットリスト案を元に"Christmas Premium LIVE"のリハーサルを行なった3人＋櫻田さん。新たに追加するクリスマス楽曲のアレンジやセットリストの確認を含め、練習は16時前に終了していた。けれど、その後も3人は集まってミーティングを持つ。ブロックごとの立ち位置や動きの意図や流れを相談していた。机の上には、譜面とノートと筆記用具と、メンバーやスタッフが持参したお菓子が置いてある。なんとなく友達の家に集まって宿題をやっている学生のように見えて微笑ましくもあるが、話している内容はクリエイティヴかつアーティスティック。「ステージ全体をどう活かすか」という俯瞰的視点と、「曲のイメージやアレンジに合わせて動きたい」という表現者としての要望を3人が率直にぶつけ合い、"観客のみんなに一番届けられる見せ方"を模索しているのが伝わってくる。フレーズごとの顔や身体の向きや目線の方向、照明の雰囲気など、きめ細やかにイメージしてライヴの全体像を描いている。

「よし、見えた!」というKeikoの明るい声を合図に1時間弱のミーティングが終了し、この日は解散。「やるべきことはやれました!」とニッコリ笑うKeikoと、「頑張ります!」と声を弾ませるWakanaとHikaruの姿が頼もしすぎる。あとは、ストリングスチームや舞台監督を始めとした全スタッフが集結する全体リハーサルで最終的に仕上げていくのみだと言う。きっとそれまでに3人全員が自らの表現を追求しつつ、より高みを目指すために歌い込んでくるんだろうなぁ、と思いながら帰っていく3人を見送った。

＊

その後、つつがなくツアーはスタートし、会報チームは12月2日の宮城·電力ホールで初めて本番ライヴを観ることができた。年末の"Christmas Premium LIVE"と合わせて、その模様は次号＃03にてお届けしたいと思う。

第２回

Wakanaと行く！ サメ捕獲の旅！

サメを愛するWakana。
「今回はサメを食べよう！」（！？）ということで、
サメ料理を食べ比べてみました!!

まずはサメといえばフカヒレ！
中華料理を食べに行きました！

大好きな貴方（サメ）のことが知りたーいから食べちゃいます！

選んだのはもちろんフカヒレランチコース！

フカヒレ入り茶碗蒸しにフカヒレ入り春巻き 美味しい〜〜〜!!

好吃！ できたてほっかほかのフカヒレ小龍包登場！

次はフカヒレ入り小籠包。
次から次へとフカヒレが！

スープたっぷり！

フォトジェニック・チャーハン

最後はフカヒレスープチャーハン！ たまらなく美味しいです…また来たい…

フカヒレ三昧、最高♡

「フカヒレではなくサメの身の部分も食べてみたい」というWakanaのサメへの熱い想い。
というわけで3種のサメ料理をお取り寄せしてみました。どんな味がするのでしょう!?(ドキドキ)

用意したのは、サメジャーキー、サメの昆布締め、サメのたれ(味醂干し)の3種です。Wakanaも初めて食べるものばかりです

サメジャーキー
サメの昆布締め
サメのたれ(味醂干し)

貴重な包丁を握る姿!

お皿に盛りつけて

いただきます!

ドキドキする〜。どれから食べようか

パクッ

お、おいしい!

この表情(笑)

サメの昆布締め、おいしい!日本酒に合いそうです♪

サメの味醂干しはWakana考案(?)の七味マヨネーズをつける食べ方でいただきます♡

サメの昆布締めは、わさび醤油で

むむむ?

サメの昆布締め
サメジャーキー
サメのたれ(味醂干し)
わさび醤油
マヨネーズ

◆このコーナーも第2回目! サメ料理を食べ比べた感想はどうですか!?

「昆布締めは見た目は白身魚みたいなんですけど、食べてみると思ったより淡白ではなく、なかなか歯ごたえがありますね。日本酒が合うと思います! 私はこれがいちばん好きかも」

◆確かにちょっと白身魚のお刺身とは違いますね。これがサメなんですね。他の2つはどうでしたか?

「サメジャーキーはお肉みたいなのかなと想像して食べたらイカみたいですね! スルメみたいにずっと噛んでいられるのでダイエットにいいと思います! スルメっぽいのでサメを初めて食べる方にはいちばん試しやすいかも。サメのたれ(味醂干し)はカリカリに焼いたらおいしいと思う! 白身魚っぽいかな〜」

◆味醂干しに使われいるサメはヨシキリザメですって。

「(画像検索して)あ、今回のツアーでグッズにしたトラベルセット(Wakanaプロデュースグッズ)のサメに似てる(笑)」

◆あ、ホントですね(笑)。そして、中華料理のフカヒレコースも食べに行きました!

「フカヒレはもともと味がないものだから、中華料理でおいしく調理してもらって七変化でいろいろ楽しめるんですね。とても美味しい料理にしてもらって食感を楽しむ!」

◆総評をお願いします!

「サメはとにかく一度食べてみたいっていう好奇心がすごくありました。もっとサメをよく知りたい!と。実際食べてみるとサメはお肉ではなく魚ですね。今回はお取り寄せしたけど、実際その場で捌いて生で食べたりもしてみたいですね〜。あとは"美味しんぼ"で観たサメのムニエル! いつか食べてみたい! 今回、食べ比べてみた結果としては、やっぱりフカヒレが最強でした(笑)」

◆みなさんも機会があったら、是非サメを食べてみてくださいね!

Keikoの美活!

ゆる加圧トレーニング・ピラティス編

Keikoが美容や健康のために
取り組んでいる模様をお届けするこのコーナー。
2回目の今回はゆる加圧トレーニング・ピラティスの様子を
取材してきました!

Photo ⇒ Tomoki Hirokawa

まずは発汗したり流れがよくなるデトックスクリームを塗ります

ラップ→バンテージの順に巻いていきます

「先生は体のすべてを知っていて詰まっている場所がわかるので痛い・・・!」

最後に加圧を巻きます。これで準備万端!

ウォーミングアップ中

いよいよトレーニング! ピラティスの機械"リフォーマー"を使ってストレッチ兼筋トレ。「キツイです!」

ストラップに足を引っかけて、自分の体重でストレッチと内もも強化!

しっかりと肩を下げて脇を締め、上腕三頭筋を鍛えます

シルクサスペンションというエクササイズ。先生「これ立つのも結構難しいんですよ」 笑顔で立っているKeikoすごい!

背骨の周りの筋肉を使って体幹を鍛えます。汗がすごい!

体を伸ばします

最後にプランクという筋トレを1分×2~3セットやって終了

「終わった後、ホントに細くなるんです!」 確かに最初の写真と比べるとお腹がほっそり!

◆今回は加圧を巻きながらのピラティスでした。どのくらい通ってるんですか?

多いときは週4、5回行ってます。こんなに続いたジムは初めてです。

ジムマニアなんでいろんなところを試すんですけど(笑)。

楽しいだけじゃなくストレスも溜まらないしメンタル的にもすごくリラックスできて2年半続いています。

◆前回のキックボクシングとの違いは?

前回のキックボクシングは有酸素運動を意識してやっているんですが、このジムは体のメンテナンスですね。マッサージや整体に行ったりも、もちろん大事なんですが、痛みや歪みは生活習慣で戻ってしまうので、他動的ではなく自分で体を動かす事で筋肉で体を支えていく事が大切なんです。

2年半やっていると自分で体の調子が悪いところもわかるようになりました。

◆トレーニングの時間はどれくらいですか?

1時間弱です。最初に10~15分加圧・除圧しながらマッサージをしてくれます。体を触っていただいてその日のコンディションに合わせてメニューを決めます。

その後、トレーニング。

トレーニング後は乳酸が溜まらないようにもう一度マッサージをしてくれます。

先生「ラップとバンテージで温めてデトックスする、皮膚の中の要らないものを運動しながら出してしまおう、というトレーニングですね」

ボディ用のラップは自分でも持っていて、ツアーの新幹線移動とかはこれを巻いて行きます。

ラップ1本持っていけばいいから荷物にならないし、とてもいいんです。

ライヴのリハ中も巻いていたらミュージシャンの方に「Keikoちゃん艶々のレギンスみたいの履いてて流行ってるのかと思った」と言われました(笑)。

◆今日のKeikoの体の状態はどうですか?

先生「いつもは何も滞ってないっていう感じがするんですけど、今日はちょっとむくんでるかな。最近急に寒くなったから冷えもあるみたいで」

私はすごく冷えやすいので、ライヴや取材を受けている時も、常にカイロとか、毛布に包まったりして保温してます。冷たいものも出来るだけ飲まないし。……気をつけていても冷えてきちゃうんですけどね。

◆やっていて良かったことはなんですか?

脊柱(腰椎〈腰〉・胸椎〈横隔膜〉・頚椎〈首〉)、すべての脊柱起立筋の働きがどれだけ声に影響するかを学びました。体の背面が固まると声も響かなくなるので、体の緊張を緩めることで、たくさんブレス(呼吸)ができるようになって、いい声が出ますし、ロングトーンの伸びがよくなります。

Kalafinaの活動にもとてもプラスになりました。

◆ファンの方へおすすめポイントは?

私は家でもあまりダラダラしないタイプなので、体がリラックスできていないということもあり。ここへ来て力を抜くことの大切さを学びました。メンタルと同じで自分の体もオンオフが必要なんですね。

例えば、履けなくなった凄くきついデニムを死にもの狂いで履いて数時間過ごして、脱いだ時に「こんなに力入れてたんだ」というのが加圧で、メンタルも体も緩めていたら緊張させる、緊張したら緩める、が大事なんじゃないかなと思います。

あとがき

Keikoの美活、第二弾! お楽しみいただけましたか?

自分にとって心のメンテナンスともなっている運動ですが、ここまで長く続いたジムは初めてです。たった60分で体がこんなにラクになることってあるんだなって自分でも驚いてます。

そしてこのジムに通う、もうひとつ理由がトレーナーさんです!

私の癒しと支えでもあります!

仕事で心と体が疲れてしまった時、笑顔で励ましてくださるトレーナーさんが待っていてくれる……。私の大切な場所です!

今私が歌えているのは、トレーナーさんに出逢えたから!! 出逢いに感謝です。

第2章

ブックコンシェルジュHikaruの部屋へようこそ

本格的な冬が到来! 温かくておいしいお鍋をみんなで囲みたい、そんな季節になってきました。2回目となる今回は、"食"をテーマにHikaruのオススメ作品をご紹介!

Photo⇒片岡 祥

"食"といえばこの作品!

異世界食堂／犬塚惇平
食戟のソーマ／原作:附田祐斗 作画:佐伯俊
甘々と稲妻／雨隠ギド
衛宮さんちの今日のごはん／原作:TYPE-MOON 漫画:TAa
銀の匙／荒川弘

❶「異世界食堂」 著:犬塚惇平

'17年夏クールに放映されていたアニメ作品。原作は小説で、コミカライズもされている作品です。タイトルの"異世界"と"食堂"という異色な組み合わせが気になって録画していたんですけど、いざ観てみたら、ウェイトレス・アレッタ役の声を同じ事務所の上坂すみれちゃんが務めていて。それもあって毎回観るようになりました。「コロッケ」や「ビーフシチュー」に「カレーライス」等々のお馴染みのメニューを出してくれる町の洋食屋「洋食のねこや」が舞台なんですけど、土曜日だけ入口の扉が異世界とつながる不思議なお店で。異世界で暮らす、さまざまな人や人ならざる者たちが、「ねこや」の食事を求めて訪ねてきて、それぞれのキャラクターが注文するメニューにまつわる物語が描かれるんです。食べ物がおいしそうに描かれているのももちろん見どころなのですが、その人の生き様と食べ物が繋がって感じられるところがこの作品の面白さなんだと思います。"異世界"だけに、私たちとは生きている世界の常識や感覚が違うわけで。初めてパフェを食べた人が「なんだ!? この白くてふわふわしたものは!? 冷たくて甘いとは!?」って驚いたりして(笑)。確かに、食べたことなかったらビックリするよね!って。そういうふうに自分のなかの既成概念を払拭してくれるんです。身近にあるメニューだからこそオモシロイんですよね。いろいろな料理が登場するんですけど、Hikaru的にうわーいいな♡って思ったのは「豚汁」の回(ニッコリ)。アニメでは最終回に登場するんですけれど、ストーリー自体もとても素敵なので、ぜひ観てほしいです!

❷「食戟のソーマ」 原作:附田祐斗 作画:佐伯俊

「食戟のソーマ」は、2017年秋クールにアニメ3期が放映中のお料理バトルもの。原作は『週刊少年ジャンプ』で連載中です。名門料理学校・遠月学園で、下町の定食屋の息子である少年・幸平創真が凄腕の料理人と料理対決して成長していくお話です。いろんなキャラごとに得意料理のジャンルや技法、取り組み方が違うし、化学的なアプローチも採り入れられているので、読み進めていくと料理に関するあらゆる知識がどんどん増えていきます(笑)。主人公の幸平くんは、芯があって、センスや才能もあるけど、努力を惜しまない前向きなキャラクター。仲間はもとより、料理対決した相手も巻き込んで結果的に仲良くなるような魅力的な人物なので、やっぱり彼を応援しちゃいますね(笑)。料理人である父親を超えるために超難関の名門料理学校に編入して研鑽を積んでいくんだけど、物語が進むうちに、おいしい料理を作ることを通して、"自分の料理とはなんだろう"と道を見出していく。さまざまな相手と戦い、共闘することで、ひとりでは気づけなかったことに気づいて成長していく姿を、「そうだよね~!」って共感しながら見守っています。ただ単に天性の才能や飛び道具的な力で「勝利」するのではなくて、"汗と努力と涙"があるのが良い! さすが少年漫画!

❸「甘々と稲妻」 著:雨隠ギド

原作はマンガなんですが、アニメ作品として出会って、そのやわらかい雰囲気と温かなお話に心を掴まれました。女子高生・小鳥ちゃんと奥さんに先立たれた教師とその幼い娘・つむぎちゃんが料理を通じて交流を深めていくお話なんですけれど、やっぱりメインキャラに小さい子供がいると、それだけでほっこりしちゃうというか(笑)。「一緒にご飯を作って食べませんか?」というところから始まる物語なんですけど、小鳥ちゃんも先生もめっちゃ料理初心者で。まず、お米を研いで土鍋で炊

く、というところから始まります。幼いつむぎちゃんがいるからこそ生まれるエピソードもかわいくて。嫌いなピーマンは絶対よける、とか(笑)。それをどうやって食べさせる!?と試行錯誤したり、おいしいね!と言って食べてくれた時の嬉しさとか……人と人のつながりを感じることができる、心がほっこりする食アニメ。"人とごはんを一緒に食べる"ことのあったかさや幸せを感じられる作品です。

❹「衛宮さんちの今日のごはん」 原作:TYPE-MOON 漫画:TAa

Fateシリーズのパラレルワールド／スピンオフ作品で、のほほんとした日常系ごはん漫画です。衛宮士郎くんがおいしいごはんを作ってくれて、凛や桜、サーヴァントたちが食べてるっていう(笑)。すごく身近な、実際に食卓に並んでそうな献立が描かれているので、読んでると作りたくなっちゃう。2話でランサーが食べさせてもらってた「鮭ときのことバターホイル焼き」がめっちゃおいしそうで、いつか作りたい! 漫画やイラストで詳しく作り方が描いてあるので、わかりやすいんですよ。1話めは「あったか寄せ鍋」の回なので、今の季節にぴったり。ぜひ読んで、みんなで鍋を作ってあったまりましょう!

❺「銀の匙」 著:荒川弘

青春物語でもあり、食育マンガでもあります。第一志望の進学校への道が閉ざされた主人公·八軒くんが、寮があるから、という理由だけで北海道の農業高校に進学を決めてしまう、というところから物語は始まるんですけど、最初は後ろ向きだった八軒くんが農業や酪農を通じて、どんどん成長していくんです。クラスメイトや先生や周囲の大人の協力を得て、いろんなことに挑戦していくうちに、読んでいる私自身にもさまざまな気付きがあって。命を育てて、その命をいただく、という過程がちゃんと描かれていくことに衝撃を受けました。子豚を育てて、心を込めて面倒をみて、かわいがって。でもその豚が出荷されていって、肉になって、ベーコンになって、それを食べる……リアルだなぁって。自分が口に入れて血肉にしているものはこうやって作られていくんだ、っていう、もはや勉強に近い感覚です。普段はそんなことまで考えずに、お店で売られている食材を使った料理を食べているけど、最初からその状態なわけはなくて、育てて、作ってくださっている方たちがいるわけで……感謝ですよね。大人になってから読むと、よりわかる、より刺さる、より考えさせられる作品だと思います。

今回挙げた作品は、ストーリー自体もとても面白くて引きこまれるものばかりですけれど、同じくらいさまざまなことを教えてくれる食マンガ·食アニメです。気になるものがあれば、ぜひ読んでみてくださいね。

冒険したくなる!?作品

こぼれネタ

想像力のツバサを広げよう!

メイドインアビス　つくしあきひと
マギ／大高忍
ツバサ-RESERVoir CHRoNiCLE-／CLAMP

◆「メイドインアビス」 著:つくしあきひと

'17年夏クールに放映されていたアニメで出会った作品。絵柄がかわいいので、ほのぼのファンタジーかな?と思ったら、骨太な世界設定とえぐい描写もぐいぐいあって驚きました。わりとエモい大人のファンタジーアドベンチャー。行方不明の母親を探すために、ヒロイン·リコが謎の少年·レビと共に巨大な縦穴「アビス」を探検していく、というのがあらすじ。話が進むにつれて、驚きの事実がどんどん明かされていって、毎話衝撃を受けて終わるので観るのに気合いが必要でした(笑)。そしてアニメ最終回は泣きました……。続きがめっちゃ気になります! 2期待ってます!

◆「マギ」 著:大高忍

ついに原作が最終回を迎えた「マギ」は、魔法が存在する世界観のファンタジーアドベンチャー活劇。世界創世や世界変革の話なので、なにしろ設定が壮大! 途方もなさすぎて現実逃避できるのがポイントです。完璧な想像物語だからこそ没頭できるんですよね。いろんな国、いろんな立場の登場人物がたくさん出てくるんですが、それぞれに信念があって、それを貫いたからこその生死かけた戦いや挑戦や別離があって。主人公のアラジンやアリババをはじめとした、たくさんのキャラクターの生き様から、"命を与えられた自分がどういうふうに生きていくか"ということを、自らで決断して選択していくことが大切なんだ、と教えられました。

◆「ツバサ-RESERVoir CHRoNiCLE-」 著:CLAMP

Hikaruに欠かせないCLAMP作品からは「ツバサ」をご紹介。主人公·小狼が、幼なじみのお姫さま·サクラの失った記憶を集めるためにさまざまな時空を旅する冒険活劇です。小狼は冒険を通じて、自分自身と向き合っていくんですが、Hikaru自身の近年のテーマが"自分と向き合う"なので、余計に響くものがあるというか。自分の見たくないところやコンプレックスに思っていることって避けて通りがちだけど、それを認めて受け入れて消化して進むことでしか進めない道もある、って教えてくれた作品です。CLAMP作品はどれもそうなんですけれど、キャラクター各自が背負っている運命が重いんですよね。彼らが頑張っている姿を観ると、助けたい、手を差し伸べたいって思います。それは現実世界でも同じことで。一生懸命な人がいたら手助けしたい。でもそのためには自分自身もやることをきちんとやってなきゃ、人を助けることなんてできないわけで。自分が人として成長するためになにが必要なのかを見極めることって大切だな、と思わせてくれる作品です。人がいて自分がいる、自分がいて人がいる。陰／陽ではないけれど、両方あってこそ成り立っているのが世界ですから。

本日のおすすめリスト

テーマ:"食"といえばこの作品!	
異世界食堂	犬塚惇平
食戟のソーマ	原作:附田祐斗 作画:佐伯俊
甘々と稲妻	雨隠ギド
衛宮さんちの今日のごはん	原作:TYPE-MOON 漫画:TAa
銀の匙	荒川弘
テーマ:想像力のツバサを広げよう!	
メイドインアビス	つくしあきひと
マギ	大高忍
ツバサ-RESERVoir CHRoNiCLE-	CLAMP

Information
Harmony

Live

デビュー10周年を迎えるKalafinaの、10周年記念ライヴが決定!!

「Kalafina 10th Anniversary LIVE 2018」

2018年1月23日(火) 日本武道館

CD

Single「百火撩乱」発売中

Single「into the world / メルヒェン」発売中

Album 谷村新司 45th 記念アルバム「STANDARD〜呼吸〜」発売中

※特別ボーナス・トラック楽曲「アデリーヌ」にKalafinaがバッキング・ボーカルとして参加

Blu-rau&DVD

OVA「クビキリサイクル 青色サヴァンと戯言遣い」

エンディングテーマ「メルヒェン」

OVA 全8巻発売中

「Kalafina "9+ONE" at 東京国際フォーラム ホールA」発売中

「Kalafina Arena LIVE 2016 at 日本武道館」発売中

「Kalafina LIVE TOUR 2015〜2016 "far on the water" Special FINAL at 東京国際フォーラム ホールA」発売中

「Kalafina LIVE THE BEST 2015 "Red Day" at日本武道館」発売中

「Kalafina LIVE THE BEST 2015 "Blue Day" at日本武道館」発売中

Radio

bayfm『Kalafina倶楽部』

毎週火曜日 24:00〜24:27 ※O.A終了後ストリーミング放送あり

http://bayfm78.com/kalafina/index.htm

kalafina@bayfm.co.jp

より詳しい情報や新たな更新情報はサイトをご覧ください

▶Kalafina Official Web Site→http://www.kalafina.jp

▶Kalafina Official blog→http://lineblog.me/kalafina/

▶Kalafina Official Live Site→http://www.kalafinalive.com

▶Kalafina Staff Official twitter→https://twitter.com/kalafina_staff

▶Kalafina Official Fan Club「Harmony」→https://kalafina-fc-harmony.jp/

▶Kalafina Official Fan Club「Harmony」Staff Oficial twitter→https://twitter.com/Harmony_FanClub

各種手続き方法 Harmony

◆更新手続き方法

継続用紙の発送はございません。

Harmonyサイトのマイページ、またはお手元に届く発送物封筒のラベルに会員期限が掲載されています。ご確認の上、会員期限が切れる前に継続手続きをして下さい。

メールアドレスをご登録されている会員様へは会員期限が近くなりましたら、メール配信にて更新手続きのご案内をさせていただきます。

〈PC／スマートフォンからの更新方法〉

お客様の更新期限の2ヶ月前から更新が可能です。(期限が2018年6月30日の場合、2018年5月1日から更新が可能です)

更新期間になりますと、Harmonyサイト内のマイページに『更新ボタン』が表示されます。

更新ボタンよりお支払のお手続きを行って下さい。

●クレジットカード決済の場合

お客様のクレジットカード番号など必要情報をご入力ください。

即時決済となります。

●コンビニ決済の場合

お支払いただくコンビニを選択してください。

お申込みが完了いたしましたら申込み完了メールが送信されますので、メールに記載の受付番号にて、お支払期限内にご選択いただいたコンビニにてお支払い下さい。

(お支払期限を過ぎますとお申込みは無効となりますので、再度マイページより更新お手続きを行って下さい)

メールが届かなかった・消去してしまった場合は、マイページTOPに受付番号・支払期限が表示されておりますので、そちらをご確認下さい。

〈PC・スマートフォンをご利用不可能な方の更新方法〉

郵便振替で更新手続きをして下さい。

※HarmonyはローソンのLoppiからはお手続きいただけません。

口座番号:00100-9-696779　加入者名:Harmony　振込金額:4,000円

通信欄:会員番号・お名前・「継続会費」、とご記入下さい。

ご依頼人:お名前・ご住所・お電話番号をご記入下さい。

※必ず郵便局の払込票を使ってお振込み下さい。

※ATMでキャッシュカードを使ってご入金されますと、必要事項が記入できませんのでご注意下さい。

※郵便振替でお手続きの場合は、更新手続き完了までに少々お時間をいただきます。

◆登録内容の変更

お引っ越し等でご住所などに変更がある場合は、下記の方法でお早めに登録内容の変更をして下さい。

会報の発送は郵便局からの郵送ではなく、クロネコヤマトメール便での発送となります。

郵便局に転送届を出していても転送はされませんのでご了承下さい。

〈PC・スマートフォンをご利用可能な方〉

Harmonyサイトのマイページよりご変更のお手続きをお願いいたします。

〈手順〉

Harmonyサイトにアクセス

⇒ログインボタンからログイン⇒マイページにアクセス⇒『登録個人情報』ボタンから『編集』へ進む

⇒メールアドレス・パスワード・姓・ご住所・お電話番号などを変更⇒『保存』を押すと変更が保存されます

※お名前や生年月日などマイページで変更できない会員情報の修正依頼は、サイト下部「よくあるご質問」内のお問い合わせフォームより、会員番号・お名前と修正希望の内容をご記入の上ご連絡ください。

〈PC・スマートフォンをご利用不可能な方〉

Harmonyまでおハガキで、会員番号・お名前と修正希望の内容をご連絡ください。

※おハガキで変更届けをいただく場合は、登録内容反映までに少々お時間をいただきます。

◆会員証再発行

同じ会員番号で再発行が可能です。

会員証の再発行は手数料として1,000円(税込)がかかります。

再発行には1ヶ月〜2ヶ月程お時間をいただきます。

ファンクラブにご登録のご住所へ発送となります。

〈PC・スマートフォンをご利用可能な方〉

再発行のお申込みはHarmonyサイトのマイページから行っていただけます。

〈手順〉

Harmonyサイトにアクセス

⇒ログインボタンからログイン⇒マイページにアクセス⇒『会員証再発行』ボタンを押して、お支払い方法をお選びください

⇒クレジットカードの場合は即時決済・コンビニ支払いの場合はお申込み完了後に送信されるメールに受付番号が記載されておりますので、ご選択いただいたコンビニより支払い期限までにお支払下さい

〈PC・スマートフォンをご利用不可能な方〉

郵便振替で再発行のお手続きをして下さい。

口座番号:00100-9-696779　加入者名:Harmony　振込金額:1,000円

通信欄:会員番号・お名前・「会員証再発行」、とご記入下さい。

ご依頼人:お名前・ご住所・お電話番号をご記入下さい。

※必ず郵便局の払込票を使ってお振込み下さい。

※ATMでキャッシュカードを使ってご入金されますと、必要事項が記入できませんのでご注意下さい。

◆お問い合わせ先

●Harmonyオフィシャルサイト

https://kalafina-fc-harmony.jp/

●フォームでのお問い合わせ

https://kalafina-fc-harmony.jp/contact

Harmonyサイト下部「よくあるご質問」内⇒「お問い合わせフォーム」からお問い合わせいただけます。

●メールでのお問い合わせ

support@kalafina-harmony.zendesk.com

●電話でのお問い合わせ

03-3796-8720(平日11時〜18時)

●郵送先

〒107-0062

東京都港区南青山3-1-31 NBF南青山ビル6階

スペースクラフト・エンタテインメント㈱

S.C.CLUB「Harmony」　宛

※ファンクラブ業務以外のお問い合わせはお受けできませんのでご了承下さい。

Kalafina Harmony Official Fan Club

Kalafina
Harmony
Magazine